

災害対策支援 雨量分布把握システム Rainfall Distribution System For Disaster Assistance

1. 概要

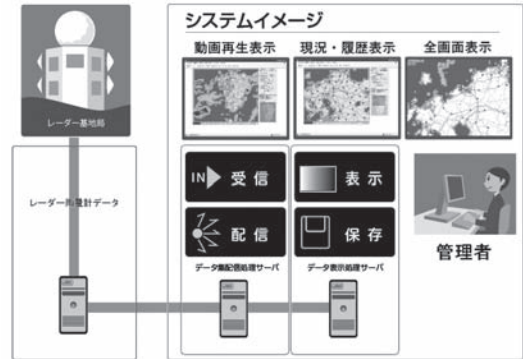
災害対策支援雨量分布把握システムは、デジタル道路地図 (DRM) を利用し、レーダー雨量計データを地図上にマッピング表示するもので、降雨状況の把握など災害対策支援に大きな力を発揮することが期待されるシステムである。

本システムは、集配信系と表示系の各サーバにて構成し、Webにより提供する。

さらに、レーダー雨量画面の表示属性 (路線・河川・雨量域の透過率等) のカスタマイズが、ユーザ側で設定可能である。

2. 特長

- (1) デジタル道路地図 (DRM) 上への透過レイヤー表示
表示地図上に雨量域を透過レイヤー表示させることで、雨量分布とエリア情報を同時に把握することを可能とした。
- (2) 地域にあわせた必要エリアのカスタマイズ表示
地図縮尺切替は6段階とし、広域から狭域までの幅広い表示管理を行うことができる。また、事前通行規制区間など監視対象としたいエリアを初期表示画面とするなど、運用に応じたカスタマイズ表示を可能とした。
- (3) マルチビジョン向けフルスクリーン表示
災害時に大型表示画面に映し出すことを目的とし、表示地図部分を全画面表示させることにより、災害対策時の情報共有支援を実現させた。また、全画面表示中であっても、表示地図の操作 (エリア選択や動画再生等) を可能とした。
- (4) ユーザによる表示属性カスタマイズ表示
雨量強度により雨量域レイヤー色が濃くなる場合、雨量分布エリアを識別することが困難となるため、必要に応じて、雨量強度のレイヤー透過率を任意に変更することで、雨量分布とエリア情報の識別を容易にすることを可能とした。
加えて、道路幅や路線色、陸地色などもユーザが設定変更できるようにしたことにより、ユーザ毎のオリジナル表示地図の提供を可能とした。



システムイメージ
System image

3. 仕様

- (1) データ集配信処理サーバ
レーダー雨量収集
CPU : Intel Xeon 2.33GHz以上
メモリ : 2GB以上
HDD : 36GB以上×4 (RAID5相当)
Standby含む
OS : Windows Server 2003またはLinux (Red Hat)
- (2) データ表示処理サーバ
レーダー雨量の蓄積及びレーダー表示処理
CPU : Intel Xeon 2.50GHz以上
メモリ : 2GB以上
HDD : 36GB以上×4 (RAID5相当)
Standby含む
OS : Windows Server 2003



レーダー雨量画面例
Service screen image

お問合せ先 ソリューション営業部 官庁営業グループ
電話 03-6832-1747